

第 3 回北海道科学技術審議会部会における主な意見

1 開催日時 平成29年8月24日（木）15:00～17:00

2 開催場所 かでる2・7 9階 920会議室

3 議 題

- (1) 次期科学技術振興計画の検討案について
- (2) その他

4 委員からの主な意見

【重点化プロジェクト関連以外】

- 「Ⅶ 基本的な施策」のところで、北海道として科学技術の振興に向けて、こういった施策をきちんとやっていくという位置付けを書き込んでおいた方が良い。研究分野はこれ、重点はこれ、施策はこうと、ブツ切れのイメージが強い。
- 「Ⅶ 基本的な施策」の「研究開発に関する拠点形成」のところで、前回の拠点形成と今回の拠点形成とでは、今回は事業化、実用化のところはかなり注力しているという書きぶりにした方が良い。取り組もうとしていることは堂々と見える形での表記を検討してほしい。
- 「Ⅷ 北海道内6地域における取組」については、6地域の特徴をきちんと表すような記載、この地域ではここに重点があるという項目立てで整理すると、このような章立てにする意味がある。
「Ⅴ」の北海道の研究開発分野の中には、当然地域に関わっているものもあるわけで、地域独自の取組については「Ⅷ」でフォーカスを当てれば良い。常に一体感を持った計画であるべきで、地域はこれ、北海道全体はこれ、といったことだけは避けるべきだ。

【重点化プロジェクト関連】

- 「食・健康・医療」と「環境・エネルギー」は、これまで続けてきたし、これからも考えていかなければならない分野。それに加えて今回、「先進的ものづくり」という分野として作りあげてきた。そして、これらの共通的な戦略ツールとして、これからはもうAI/IoTを活用していくということで、「AI/IoT等利活用」分野。この中で、AI/IoTは、並びとしては明らかにちょっと違うが、3プラス1の4分野を次期計画の重点分野とする。
- 今回、重点化ということで整理しようといった割には、あまりにも項目が多くて、重点化できていない。重点化プロジェクトをもう少し絞り込んで、具体的にした方が良いのではないか。

- 「食料の安定供給」と記載されているが、安定供給するためには色々な手段があって、品種改良とか、それを一つ一つ書いてもしょうがない。また、例えば、「食料の付加価値向上」の中に「機能性食品等の開発」が入っており、総論と各論が入り乱れている。「安定供給」には、当然、食の安全性も含まれる。細かくちりばめられている項目をできるだけ統合する方向で整理していただきたい。これ以上、新しい、大きなタイトルは出てきてほしくない。
- 「先進的ものづくり」分野は、書かれている項目が、他のところと比べて、すごく細かく見える。
- 「先進的ものづくり」の中で、「自動車の自動走行に関する研究開発の促進」が、特出しして項目になっている。道の「自動車産業集積アクションプラン」の中では、自動走行と部品生産拠点形成など、何項目か挙げられているが、それと整合性を取るべき。
- 「自動車の自動走行に関する研究開発の促進」と記載があるが、北海道ならではの強みがわかる表現にした方がより説得力がある。
- AI/IoTについて、産業としてのITをもう少し出していった良いのではないか。
- AI/IoTの分野で、人材育成には二つの意味がある。一つは、誰でも当たり前のツールとして使えるようにする意味。もう一つは、情報処理分野のプロフェッショナルを育てるという意味での人材育成がある。
- AI/IoTの分野では、ネットワークづくりがすごく人材づくりに影響する。IT業界とうまくつながることによって、育成した人材に定着してもらえる。
- 多少、手が届くのが難しくても、何か夢のあるプロジェクトを重点化プロジェクトの中に入れておいてほしい。
「食・健康・医療」のところでは、ゲノムバンクの関係。「環境・エネルギー」では、水素サプライチェーンの構築。「先進的ものづくり」は、航空宇宙。そういう意味では、夢のようなものは、要素としてのこっているのかなと思う。